

# 平成28年度 事業報告書

## 【 I 】 事業総括・事業団概要

近年の少子高齢化の急速な進行等、社会・経済情勢の目まぐるしい変化により、福祉を取り巻く環境も様々な制度の改正等、非常に厳しいものとなっており、事業団においては、自主性・自立性が発揮できる柔軟な法人経営と、利用者ニーズに応じたきめ細やかな福祉サービスの提供が求められている。

このような課題に迅速かつ的確に対応するため、法人本部体制をはじめとして組織全体の機能強化を推進している。平成28年度は、当事業団の目指すべき方向と目標を実現するため平成26年3月に策定した中期経営計画の最終年度であり、設定目標達成に向けた取組の推進をし、これまでの取組の成果を踏まえ、次期中期経営計画の策定を行った。

また、平成28年度の社会福祉法人制度改革に伴って、法人の組織編成を検討し、施行スケジュールに沿った定款変更及び規程改正をし、評議員選任・解任委員会の設置や新評議員及び役員の選任手続き等を順次行った。地域における公益的活動としては、下関市社会福祉協議会が中心となって発足した「下関市社会福祉法人地域活動協議会」へ参加し、今後の協働による活動の可能性について協議をした。

### 1. 役員等に関する事項

定数 理事8名 監事2名 評議員17名

### 2. 平成28年度理事会の開催状況

回	年月日／開催場所	審議内容		出席者数
1	平成28年4月1日 本部事務局	議事 議事 議事 議案第11号 報告	理事長の互選について 常務理事の指名について 理事長の職務代理について 下関市こども発達センター診療所設置及び管理運営規程の一部を改正について 欠員理事の補充について	理事 7名 監事 2名
2	平成28年5月26日 本部事務局	議案第12号 議案第13号 報告	平成27年度事業報告及び決算の認定について 社会福祉法人下関市社会福祉事業団評議員の選任について 中期経営計画の進捗状況について	理事 8名 監事 1名
3	平成28年11月10日 本部事務局	議案第14号 議案第15号 報告1 報告2 報告3	社会福祉法人下関市社会福祉事業団職員就業規程の改正について 社会福祉法人下関市社会福祉事業団嘱託職員等就業規程の制定について 中期経営計画の進捗状況について 指定管理更新の進捗状況について 社会福祉法人制度改革への対応について	理事 8名 監事 2名

4	平成28年12月19日 本部事務局	議案第16号 議案第17号 議案第18号 議案第19号 議案第20号 議案第21号 議案第22号 議案第23号 報告1 報告2	社会福祉法人下関市社会福祉事業団定款の変更について 社会福祉法人下関市社会福祉事業団役員及び評議員選任 規程の改正について 社会福祉法人下関市社会福祉事業団評議員選任・解任委 員会運営規程の制定について 社会福祉法人下関市社会福祉事業団経理規程の改正につ いて 社会福祉法人下関市社会福祉事業団就業規程の改正につ いて 社会福祉法人下関市社会福祉事業団職員の育児及び介護 休業等に関する規程の改正について 社会福祉法人下関市社会福祉事業団嘱託職員等就業規程 の改正について 福祉サービスに関する苦情解決第三者委員の選任につ いて 次期指定管理者応募の結果について 社会福祉法人制度改革への対応について	理事 8名 監事 2名
5	平成29年2月2日 本部事務局	議案第24号 議案第25号 報告	評議員選任・解任委員会の委員の選任について 評議員選任・解任委員会の開催について 次期理事会等の開催について	理事 8名 監事 2名
6	平成29年2月23日 本部事務局	議事 議事 議事 議案第26号 議案第27号	理事長の互選について 常務理事の指名について 理事長の職務代理の指名について 平成29年度評議員選任候補者の推薦について 社会福祉法人下関市社会福祉事業団福祉サービスに関す る苦情解決委員会規程の改正について	理事 8名
7	平成29年3月16日 本部事務局	議案第28号 議案第29号 議案第30号 議案第31号 議案第32号 議案第33号 議案第34号 議案第35号 議案第36号	平成28年度第1回補正予算案について 平成29年度事業計画及び予算案について 社会福祉法人下関市社会福祉事業団組織規程の改正につ いて 社会福祉法人下関市社会福祉事業団理事長の専決規程の 改正について 社会福祉法人下関市社会福祉事業団就業規程の改正につ いて 社会福祉法人下関市社会福祉事業団嘱託職員等就業規程 の改正について 社会福祉法人下関市社会福祉事業団給与規程の改正につ いて 社会福祉法人下関市社会福祉事業団決裁規程の改正につ いて 介護予防支援通所事業運営規程【下関市陽光苑デイサー ビスセンター】の改正について	理事 8名 監事 2名

	議案第37号 議案第38号 議案第39号 議案第40号 報告	社会福祉法人下関市社会福祉事業団服務規程の改正について 決算剰余金の処分について 生きがい支援通所事業運営規程【下関市陽光苑デイサービスセンター】の改正について 事務局長等の任免について 中期経営計画（平成29～33年度）について	
--	--------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

### 3. 平成28年度評議員会の開催状況

回	年月日／開催場所	審議内容		出席者数
1	平成28年4月18日 市社会福祉センター	議案第4号	社会福祉法人下関市社会福祉事業団理事の選任について	評議員11名
2	平成28年5月26日 市社会福祉センター	議案第5号 報告	平成27年度事業報告及び決算の認定について 中期経営計画の進捗状況について	評議員12名
3	平成28年12月19日 市社会福祉センター	議案第6号 報告1 報告2	社会福祉法人下関市社会福祉事業団定款変更について 次期指定管理者応募の結果について 社会福祉法人制度改革への対応について	評議員13名
4	平成29年2月13日 市社会福祉センター	議案第7号 報告	社会福祉法人下関市社会福祉事業団役員の選任について 評議員会の開催予定について	評議員14名
5	平成29年3月16日 市社会福祉センター	議案第8号 議案第9号 議案第10号	平成28年度第1回補正予算案について 平成29年度事業計画及び予算案について 決算剰余金の処分について	評議員11名

### 4. 福祉サービスの苦情解決に関する第三者委員の会議開催状況

回	年月日／開催場所	審議内容	出席者数
1	平成29年2月20日 本部事務局	(1) 新委員の紹介 (2) 各施設の概要説明 (3) 各施設の現状と苦情解決に向けた取り組み (4) その他	委員 4名

### 5. 施設連絡協議会の開催状況

回	年月日／開催場所	協議内容	
1	平成28年4月4日 本部事務局	協議1 協議2 協議3	社会福祉法改正に伴う組織改正 指定管理の切り替え（4施設） 中期（長期）経営計画の更新
2	平成28年5月18日 本部事務局	協議1 協議2 協議3	5月の理事会、評議員会の内容について 社会福祉法改正に伴う組織改正について 平成28年度の合同研修会について

3	平成28年6月15日 本部事務局	協議1 事務処理について 協議2 社会福祉法人の地域貢献について 協議3 平成28年度合同研修会（メンタルヘルス研修）について
4	平成28年7月13日 本部事務局	協議1 事務処理について 協議2 次期指定管理者への応募について 協議3 事業団組織改正について 協議4 次期中期経営計画策定に向けて
5	平成28年8月17日 こども発達センター	協議1 夏の体調管理について 協議2 新組織体制について
6	平成28年9月21日 梅花園	協議1 指定管理応募の資料作成について 協議2 電力供給業者の見直しについて
7	平成28年10月19日 本部事務局	協議1 指定管理応募の資料作成について 協議2 理事会の開催について 協議3 他施設からの評議員就任要請について
8	平成28年11月15日 本部事務局	協議1 指定管理応募結果について 協議2 人事異動希望調査について 協議3 次期中期経営計画の策定について
9	平成28年12月14日 こども発達センター	協議1 12月の評議員会、理事会について 協議2 次期中期経営計画の策定について 協議3 来年度当初予算について 協議4 人事院勧告に伴う対応について
10	平成29年1月18日 梅花園	協議1 2月の評議員会、理事会について 協議2 次期中期経営計画の策定について
11	平成29年2月22日 陽光苑	協議1 平29年度の各施設の組織体制について 協議2 組織規程と給与規程の改正について
12	平成29年3月17日 本部事務局	協議1 来年度への引継事項について

6. 施設職員に関する事項 平成 29 年 3 月 31 日現在の職員数 ※( )は嘱託・パート再掲

区分	本部	センター	豊浦分室	診療所	梅花園	陽光苑	こども館	合計
事務局長	1(1)							1(1)
施設長		1(1)			1(1)	1(1)	1(1)	4(4)
事務員	3	1		1(1)	1(1)	1(1)	2(2)	9(5)
児童指導員		3(2)	1					4(2)
生活相談員・生活指導					1	6		7
保育士		20(16)	5(5)				4(4)	29(25)
相談支援専門員		1						1
相談員		1(1)					2(2)	3(3)
作業療法士		1						1
理学療法士		1						1
言語聴覚士		1						1
臨床心理士		2		2(2)				4(2)
言語指導員		1(1)						1(1)
介護職員・支援員					11(4)	19(16)		30(20)
看護師・准看護師		2(2)		3(3)	2	3(1)		10(6)
栄養士		1			1	1		3
調理員		2(2)			5(5)	7(5)		14(12)
自動車運転手		2(2)						2(2)
医師		2(2)		1	1(1)	1(1)		5(4)
合計	4(1)	42(29)	6(5)	7(6)	23(12)	39(25)	9(9)	130(87)

## 【Ⅱ】本 部

### 1. 概 要

法人全体や各事業の計画的な進行管理を行うとともに、経営の課題や事業運営上の課題について、将来的なリスクを含めた情報を内外から収集・分析し、理事会、評議員会、施設連絡協議会等に諮った。

また、法人全体の経営に関する事務（経理、定款、規程改廃、監査対応、予算、決算）や、人事や給与に関する事務（給与計算、社会保険等事務）等を集約して行った。

### 2. 業務の実施状況

事業団の効率的な管理運営を図るため、実施した主な内容は次の通り。

#### （1）理事会の開催

平成28年度は、7回開催した。社会福祉法人制度改革に伴う定款変更、役員・評議員の選任に係る諸規程の改正及び制定、その他諸規程の見直しによる一部改正及び制定、事業報告及び決算、事業計画及び予算等の議案を審議し、すべて承認された。また、健全な法人経営を継続するため、理事会へ随時報告を行うとともに、事業運営に関わる状況の説明報告をし、役員との意見交換に努めた。

#### （2）評議員会の開催

平成28年度は、5回開催した。役員等の選任、事業報告及び決算、事業計画及び予算等の議案を審議し、すべて承認された。また、社会福祉法人制度改革への対応や、事業運営に関わる事項の報告を行った。

#### （3）経営基盤の強化

##### ア）施設連絡協議会の開催

事務局及び各施設の施設長及び副施設長で、定期的な連絡協議会を月1回開催し、施設間の連絡調整を図り、運営上の具体的な問題等について協議した。

##### イ）中期経営計画の進捗

平成28年度の進捗状況の取りまとめを行い、理事会に報告した。また、中期経営計画実施3年目の最終年度に当たることから、目標達成状況の振り返りと次なる課題の整理をし、第2期中期経営計画の策定に向けた取組を行った。

##### ウ）施設の計画的修繕の実施

平成27年度に作成した施設長寿命化修繕計画（梅花園及び陽光苑）に基づき、各不具合箇所の修繕を行うとともに、突発的な修繕箇所に対しても、施設予算で対応し利用環境の整備に努めた。

##### エ）法人合同研修会の開催

事業団全体として、合同研修会（メンタルヘルス研修）を実施し、ストレスに対する理解を深め、自分のストレスに気づき、対処する手法を学んだ。

また、山口県社会福祉協議会へ平成28年度人材確保・定着化支援事業助成金の申請を行い、10万円の補助金交付を受けることができた。

オ) 計画的な人事交流の検討

各施設の正規職員に対して異動希望と職務に対する自己評価調査を行い、職員の意識把握に努め、計画的な人事交流の情報収集を行った。

カ) 共同事業体代表業務

ふくふくこども館の運営にあたって、3者による共同事業体の代表者としてリーダーシップを取り、事業体としての事務手続き及び事業の進捗管理について中心的な役割を果たした。また、次期指定管理応募に向け、新たに2者での共同事業体協定書を締結し、平成29年度以降の事業展開について取組みを行った。

(4) 次期指定管理業務への応募

事業団が指定管理者として管理運営を行う4施設(こども発達センター、梅花園、陽光苑、ふくふくこども館)において、平成28年度が指定管理業務期間の最終年度であったことから、次期指定管理者業務(5年間)募集に応募し、10月の選考委員会を経て、4施設とも指定管理者に指定された。



## 【Ⅲ】 下関市こども発達センター

### 第1 は た ぶ 園

#### 1. 概 要

定員30名の福祉型児童発達支援センターとして、こども発達センターの理念に基づき、利用児一人ひとりの発達に応じた専門的な支援を行うために、個別支援計画を作成して目標や課題を設定し、集団保育や個別指導を通して、運動、認知、言語、感覚機能等の発達を促すとともに、食事、排泄、衣服着脱、挨拶等の基本的な生活習慣を身につけ、将来の生活に必要な基礎を育てるための療育を行った。

さらに、運動機能面や言語面において発達の遅れや障害がある通園児に対して、発達支援室のスタッフによる運動訓練や言語訓練を行うとともに、定期的な発達検査及び保護者に対するの心理相談を行った。

#### 2. 通園児の状況（平成29年3月31現在）

##### （1）年齢別男女別通園児数

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	合計
男	0	0	0	0	9	13	10	32
女	0	0	0	0	3	0	2	5
計	0	0	0	0	12	13	12	37

##### （2）月別通園児数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
初日在籍児数（人）	36	36	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	—
開園日数（日）	19	19	22	20	19	20	20	20	20	19	20	17	235
延通園児数（人）	634	628	730	685	626	628	618	677	665	593	689	582	7,755

<参考> 25年度実績 開園日数 234日 延通園児数 6,888人

26年度実績 開園日数 238日 延通園児数 7,898人

27年度実績 開園日数 234日 延通園児数 7,856人

##### （3）卒園児等

平成28年度は15名が卒園した。うち12名が就学し、3名が就園（幼稚園2名、保育所1名）した。

#### 3. 活動の概要

##### （1）療育活動の状況

構造化による視覚的支援等を取り入れ、個別支援計画に基づいた一人ひとりの発達に応じた療育活動を行った。保護者には、実施した活動の記録を渡し、療育活動の様子を伝えた。また、

きょうだいの支援やクラス懇談会、個人面談、家庭訪問、保護者参加の療育活動を定期的に行うことで家庭支援にも力を入れた。

職員の資質向上を図るため、各種研修への参加や、施設内研修・勉強会などを積極的に実施した。

### (2) 年間行事等

年	月	行 事 名
28年	4月	入園式、誕生会、はじめましての会、内科健診、園外保育、耳鼻科健診
	5月	バス遠足（到津の森公園）、家庭訪問、誕生会、スイミング開始、じゃがいも掘り（年長児）、眼科健診
	6月	保護者参観、誕生会、歯科健診、歯磨き指導、交流保育、保護者交流会 クラス懇談会
	7月	誕生会、交通安全教室
	8月	夏まつり、きょうだいのおまつり、誕生会
	9月	お買い物体験（うさぎ）、誕生会
	10月	運動会、歯科健診、交流保育、誕生会、お買い物体験（きりん・ぞう・こあら）、給食試食会、サツマイモ掘り
	11月	誕生会、総合消防訓練、内科健診、眼科健診、耳鼻科健診、交流保育、クッキング（こあら）、クラス懇談会、保護者交流会
	12月	誕生会、クリスマス会、クッキング（ぞう・きりん・うさぎ）
29年	1月	誕生会、交流保育、きょうだいのおまつり、外食体験（ぞう・きりん・うさぎ）
	2月	誕生会、クラス遠足（こあら・ぞう・きりん・うさぎ）
	3月	誕生会、お別れ会、卒園式、仮入園、外食体験（こあら年長）

### (3) 地域との交流等

近隣の幼稚園・保育所との交流を行うとともに、夏まつりでは多くのボランティアの参加のもと地域住民との交流を図った。

## 第2 保育所等訪問支援

### 1. 概要

保護者との契約に基づき、地域の保育所・幼稚園・こども園、教育機関などに通う子どもたちが集団生活に適応できるように、担当者への助言等の支援を行った。

### 2. 利用状況

平成28年度は、保育所、幼稚園児童5名の保護者と新規契約を締結し、保育所4回、幼稚園14回の計18回訪問した。

### 3. 活動の状況

当事業は、利用児への直接支援だけでなく、訪問先スタッフへの助言等を行うため、相当の経験と高いスキルが求められるため、その人材の確保が困難であることや、専任者を配置して必要な量の訪問支援を実施するための報酬体系が整っていないため、継続的な支援を行っていくことが難しくなっている。今後は、他の事業所と情報共有しながら、支援方法の検討を重ねていくことが必要と考えている。

### 第3 相談支援（障害児・特定・一般相談支援）

#### 1. 概要

医療機関・保健所・幼稚園・保育所・こども園から紹介を頂いた方に対し、相談内容に応じて療育機関の情報提供や将来に向けての助言、医療的な支援の必要性について説明を行った。また、障害福祉サービスの利用を希望する障害児（者）に対し、サービス等利用計画の作成を行った。

また、下関市自立支援協議会の相談部会とこども部会に出席し、支援が必要な大人や子どもを取り巻く環境改善に取り組んだ。

そのほか、ボランティア研修会を通じてボランティア育成を行ったほか、こども発達センターが山口県より受託した発達障害児地域支援体制強化事業に主体的に取り組み、ペアレントメンターの養成やペアレントメンターとともに研修参加やグループ相談の調整等の活動支援を行った。

#### 2. 活動の状況

##### （1）障害種別実績

（人）

相談者数		相談者数	内 訳							合計
			身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	その他	
障害者	実人数	40	10	1	28	3	15	0	1	58
	延人数	995	559	60	620	197	143	0	1	1,580
障害児	実人数	637	39	29	349	0	504	0	29	950
	延人数	4,341	425	371	2,881	0	3,216	7	0	6,900

##### （2）地区別相談者数

（件）

地区別相談者数		内 訳								合計
		本庁	山陽	山陰	豊浦	菊川	豊北	豊田	その他	
障害者	実人数	28	2	7	1	0	1	0	1	40
	延人数	513	17	448	9	0	7	0	1	995
障害児	実人数	222	146	201	17	5	7	4	35	637
	延人数	1,506	947	1,538	152	41	41	27	89	4,341

##### （3）相談の支援方法

（件）

支援方法	訪問	来所相談	同行	電話相談	電子メール	個別支援会議	関係機関訪問・相談	その他	合計
件数	50	1,337	24	3,467	138	91	226	3	5,336

## (4) 支援内容

(件)

支援内容	福祉サービスの利用等に関する支援	障害や症状の理解に関する支援	健康・医療に関する支援	不安の解消・情緒安定に関する支援	保育・教育に関する支援	家族関係・人間関係に関する支援	家計・経済に関する支援	生活技術に関する支援	就労に関する支援
件数	4,975	243	378	39	410	101	50	9	78
支援内容	社会参加・余暇活動に関する支援	権利擁護に関する支援	その他	合計					
件数	6	0	0	6,289					

※障害種別、支援方法、支援内容は重複

## (5) サービス等利用計画作成件数

## 障害児相談支援

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
契約数	6	4	4	3	4	8	8	6	4	8	11	31	97
計画作成	80	52	29	23	24	20	27	44	21	27	22	44	413
モニタリング	4	12	11	11	11	16	7	8	5	5	7	13	110

## 特定相談支援

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
契約数	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	1	1	5
計画作成	5	0	2	1	1	2	3	4	3	1	6	5	33
モニタリング	1	4	10	5	2	0	1	3	1	7	0	0	34

## 一般相談支援

平成28年度利用実績なし

## 第4 地 域 支 援

### 1. 概 要

下関市発達支援事業として発達支援室を設置し、療育に関する相談業務、指導及び助言業務を行うとともに、こども発達センター内の各事業において理学療法士等の専門職が療育活動に参加し、他職種間の連携に努めたほか、子ども達の発達の状態について、多面的に評価し、療育支援の一助とした。

また、こども発達センター診療所と月1回程度のカンファレンスや随時個別で医師と情報交換を行い、連携に努めた。また、豊浦分室とのカンファレンスは年に2回行い、情報交換、連携に努めた。利用者に対しては、こども発達センター内の療育や相談に応じたほか、社会資源の情報提供を行った。

その他、関係機関との連携や啓発に関する事業として例年行っている旧市内及び旧4町の幼稚園、保育所、こども園、保健師との発達支援連絡会については、こども発達センター主催の講演会として実施した。また、家族や関係者向けに、子ども達への理解や支援につながるような保護者研修、ボランティア研修を行った。

### 2. 活動の状況

#### (1) 下関市発達支援事業の各部門の業務概要

##### ア) 心理部門

臨床心理士が携わる心理部門の業務では、はたぶ園、どーなつ、母子通園訓練事業、その他相談や外来等のケースにおいて、他職種と連携し、子どもたちの総合的、多面的な評価に努め、チームで支援にあたった。また、利用者のニーズに応じ、他部門の職員と連携し、発達相談や育児相談・カウンセリング等を行った。

そのほか、診療所にて発達検査を実施した。また、関係機関への訪問や来所による施設支援を行った。

##### イ) 言語部門

言語聴覚士及び言語指導員が携わる言語部門の業務では、はたぶ園、どーなつ、母子通園訓練事業との連携（個別支援計画、療育活動への参加、コミュニケーション支援）を図り、子ども達や家族への支援を行った。

また、外来利用の子どもたち一人ひとりのニーズに応えた個別指導を行い、子ども達の発達の状態を診療所医師や他職種と連携し、多面的に評価しよりよいコミュニケーション支援に努めた。

##### ウ) 理学療法・作業療法部門

理学療法士及び作業療法士が携わる理学療法・作業療法部門の業務では、はたぶ園、どーなつ、母子通園訓練事業との連携（個別支援計画作成、運動あそびや食事等療育場面での支援等）を図り、両専門職が核となり保育部門と一体となって子ども達や保護者への支援を行った。また、関係機関への訪問や来所による施設支援を行った。

これらに加え、外部研修や施設内研修、専門職同士による勉強会を行い、こども発達セン

ター職員の個別指導の技術、知識向上、支援方法の統一化を図った。そのほか、こども発達センター診療所医師や他機関訓練担当者との連携を図り、療育活動へ反映させた。また、はたぶ園通園児の補装具の調整を業者と共に年二回実施した。

(2) 下関市障害児（者）療育等支援事業の活動の概要

ア) 在宅支援訪問療育等指導事業

施設に通うことが難しい重度心身障害児の在宅支援（療育、訓練など）を行った。  
また、家庭訪問し、住宅改造（リフト、浴槽改造など）に伴う助言を行った。

イ) 在宅支援外来療育等指導事業

理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士等による個別の訓練指導を行った。  
また、はたぶ園の利用児以外の児童に対して嘱託医による健康診査を行った。

ウ) 施設支援一般指導事業

利用児が通う幼稚園、保育所、こども園、学校等に対し、訪問又は来所による支援を行った。さらには、障害児保育を行う保育所等の職員からの相談に応じるとともに技術指導を行った。

エ) 支援実績（平成 29 年 3 月 31 日現在）

事業名		指導先件数（件）	延回数（回）
在宅支援訪問療育等指導事業		4	4
内 訳	巡回相談	4	4
	訪問による健康診査	0	0
在宅支援外来療育等指導事業		2,135	3,120
施設支援一般指導事業		76	122

## 第5 児童発達支援 どうなつ

### 1. 概要

発達の気になる子どもや障がいのある子どもに日常生活における基本的な生活習慣の確立を促し、スムーズに集団適応ができるよう支援した。また、集団保育をベースに、個々の児童の特性や発達に応じた運動、認知、言語、社会性の発達を促した。

### 2. 利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数(日)	14	19	22	20	19	20	20	20	19	19	20	13	225
延利用児数(人)	246	304	381	308	292	300	289	325	312	309	315	221	3,602
1日平均(人)	17.6	16.0	17.3	15.4	15.4	15.0	14.5	16.3	16.4	16.3	15.8	17.0	16.0
初日契約児数(人)	66	105	105	104	104	103	101	103	105	105	104	104	

参考 25年度実績 開所日数 223日、利用延数 3,298人、1日平均 14.7人

26年度実績 開所日数 222日、利用延数 3,651人、1日平均 16.3人

27年度実績 開所日数 223日、利用延数 3,332人、1日平均 14.9人

### 3. 活動の概要

児童発達支援管理責任者を配置し、利用児一人ひとりに対して個別支援計画を作成するとともに、発達支援室職員と共に継続的な評価等を行い、サービスの充実につながるよう努めた。また年齢や発達段階に応じたグループ編成をし、より効果的な療育と個々の児童に必要な支援を適時適切に行えるよう努めた。

そのほか、発達障害児に有効な視覚支援（実物、写真カード、絵カード等）を活用し、見通しを持ち、安定して過ごせるよう提示するなど児童に分かりやすく伝えたり、児童自らが要求内容を表現し易い手段としてもカードを利用できるようコミュニケーション支援を行った。

幼稚園、保育所、こども園との併用児については、必要に応じて施設への訪問支援を実施した。また、幼稚園、保育所、こども園の担当者がこども発達センターに来所、療育見学の機会を提供し、支援方法についての確認を通じて、保護者への支援方法を含めた情報共有や共通認識の醸成を図った。更に、家庭支援が必要な家庭に対しては、他職種の職員と連携をとりながら、よりよい支援ができるよう努めた。



## 第6 母子通園

### 1. 概要

母子通園訓練事業（キッズハウス）では、下関市心身障害児母子通園訓練事業として、おおむね3才までの心身障害児や発達の気になる子に対して早期療育を行った。

### 2. 利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開設日数（日）	4	3	5	4	3	4	4	3	4	4	4	4	46
利用組数（組）	31	25	57	39	28	48	45	33	51	39	34	47	477

参考 25年度実績 開園日数 48日 延利用組数 642組  
 26年度実績 開園日数 48日 延利用組数 363組  
 27年度実績 開園日数 47日 延利用組数 455組

### 3. 活動の概要

平成28年度も活動の場を市民センターとし活動を実施した。実施日を毎週木曜日とし、概ね3才までの発達障害や発達の遅れが気になる子どもとその保護者を対象に、遊びを通して療育活動を行った。特に、親子での活動を通して安定した母子関係の基本となる豊かなコミュニケーション力を育てることに力を入れるとともに、保護者が子どもの状態をより把握することで障害や発達の遅れを受容して、愛情と将来の見通しを持って子育てができることを目指して、指導員と各専門職員と連携して支援を行った。

また、ペアレントメンター（障害児を育てた経験のある親）の講座を開催し、保護者が相談できる機会を設けた。

そのほか、少人数でのよりよい療育や母子支援を意図して2グループの隔週利用とするとともに、こども発達センター診療所の医師との情報交換等の連携に努めた。

## 【IV】 下関市こども発達センター豊浦分室

### 1. 概 要

旧4町地区の発達が気になる子どもたちを主な通所対象とする児童発達支援事業所として、午前中は就学前の児童を対象とした児童発達支援事業として療育を行い、午後は学齢期の児童、生徒を対象とした放課後等デイサービス事業を実施した。

### 2. 利用の状況

#### (1) 児童発達支援事業

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数(日)	19	19	22	20	19	20	19	20	19	18	19	19	233
延利用児数(名)	46	50	64	60	71	61	55	71	66	56	74	62	736
一日平均(名)	2.4	2.6	2.9	3	3.7	3.1	2.9	3.6	3.5	3.1	3.9	3.3	3.2
契約児数(名)	14	16	16	18	19	19	19	21	22	22	24	24	

参考 平成27年度実績 開園日数 229日 延利用児数 745人 1日平均 3.3人

#### (2) 放課後等デイサービス事業

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数(日)	19	19	22	20	19	20	19	20	19	18	20	19	234
延利用児数(名)	85	75	101	98	100	93	85	84	83	79	83	82	1,048
一日平均(名)	4.5	3.9	4.6	4.9	5.3	4.7	4.5	4.2	4.4	4.4	4.2	4.3	4.5
契約児数(名)	37	37	40	45	45	45	45	45	45	45	46	46	

参考 平成27年度実績 開園日数 230日 延利用児数 972人 1日平均 4.2人

### 3. 活動の概要

#### ア) 児童発達支援事業

児童発達支援管理責任者を配置し、就学前の利用児に対して個別支援計画を作成し、それに基づき利用児一人ひとりに適切な支援にあたるように努めた。少人数のグループでのルール遊び、机上活動、感覚を刺激する遊びなど利用児の状態に合わせた設定を行った。また、写真や絵カードなど様々なツールを利用し、意思の疎通や自発的な要求につなげるようコミュニケーション支援も行った。

#### イ) 放課後等デイサービス事業

児童発達支援管理責任者を配置し学齢児に対して個別支援計画を作成し、それに基づき利用児一人ひとりに適切な支援にあたるように努めた。写真、絵カード、文字等様々なツールを利用して、利用児の主体的な要求や他者との適切なやり取りなど、コミュニケーション支援を行った。

また、放課後や長期休暇の余暇を楽しく過ごしてもらうため、利用児の状況を把握し、興

味が広がるような活動を提供することに努めた。

両事業ともに面談を行って利用児や保護者の悩みや思いを知ることで、家族を含めた支援につなげるように努めた。

## 【V】 下関市梅花園

### 1. 概 要

定員60名の救護施設として、身体上または精神上著しい障害があり、独立して日常生活を営むことのできない要保護者に対して、措置機関の委託により、生活保護法第38条の規定に基づいて生活扶助を行った。

平成28年度4月は、53名でスタートした。前年度に比べ入園者は1名増加、退園者は同一で、年間を通じて月平均すると51.5名となった。入園に関しては、在宅で単身生活が困難との判断で入園となるケースが主で、病院退院後の帰宅先がない場合もある。また、地域生活支援センターから依頼のあった矯正施設退所者の入園希望にも、柔軟に対応し受け入れを行った。退園に関しては、半数の5名の方が高齢化による身体機能等の低下で、園での生活が困難となり病院への入院処置となったが、うち4名の方が入院3ヶ月を経過して措置切れで退園となり、1名の方が入院中腫瘍で亡くなられた。また、1名の方が病院へ緊急搬送後心疾患で亡くなった。

そのほか2名が他施設入所と地域移行のため退園され、2名が暴力的行為等により措置終了を措置機関へ要請し、退園となった。

施設の維持管理については、水道管の漏水が2回発生し、7月に浴槽給湯設備が故障の間は入浴ができず、陽光苑の入浴設備を使用させてもらうことで対応し、修繕は施設予算にて給湯配管設備を露出配管で早急に施工した。その他軽微な修繕にも都度対応し、利用環境の整備に努めた。

### 2. 入園者の状況（平成29年3月31日現在）

#### （1）年齢構成

（単位 人・歳）

	20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	合計	平均年齢
男	0	1	1	2	8	9	9	30	61.4歳
女	0	0	0	1	4	8	7	20	66.9歳
計	0	1	1	3	12	17	16	50	63.6歳

※最高年齢：男性75歳 女性86歳

#### （2）在園期間の状況

（単位 人・年）

	1年未満	1～3年	3～5年	5～10年	10～15年	15年以上	合計	平均
男	3	6	3	7	4	7	30	8.1年
女	2	1	2	5	2	8	20	17.3年
計	5	7	5	12	6	15	50	11.8年

## (3) 入退園の状況

(単位 人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
月初在園者	53	52	52	52	53	53	53	52	50	49	50	50	619
入園者	0	0	0	1	0	1	1	1	0	1	1	1	7
退園者	1	0	0	0	0	1	2	3	1	0	1	1	10

※27年度 合計 661名 (月平均 54.7名) 入園者 6名 退園者 10名

## (4) 障害等の状況

(単位 人)

	身体障害	知的障害	精神障害	知的・身体障害	知的・精神障害	身体・精神障害	身体・知的・精神	その他	障害なし	合計
男	2	2	11	2	5	3	0	0	5	30
女	0	6	6	1	4	0	0	0	3	20
計	2	8	17	3	9	3	0	0	8	50

## 3. 処 遇

個別ニーズに沿ったサービスを提供できるよう個別支援に取り組んでいる。行事やクラブ活動の実施以外にも、希望があればグループや個人外出に出かけるなど、充実した日々が過ごせるよう処遇の改善に努めた。

## (1) 年間行事等

年 月	園 内 行 事		園 外 行 事
28年4月	誕生会・焼きそば会	市議会議員視察	ボウリング15名 日帰りレクリエーション(いちご狩り)28名
5月	誕生会・吉見文化協会慰問		日帰りレクリエーション (湯本ホテル西京)26名
6月	誕生会・五目並べ大会		買い物ツアー 40名
7月	誕生会・園内消毒	不在者投票 (参議院議員)	日帰りレクリエーション (川棚グランドホテル)49名
8月	誕生会・夏踊り	胸部レントゲン	
9月	誕生会	(厚労省監査)	買い物ツアー 38名
10月	誕生会・お好み焼き会	園内清掃	日帰りレクリエーション(コスモスウォーク)20名
11月	誕生会・園遊会	予防接種 避難訓練 予防接種	吉見地区文化祭出展及び見学 6名 買い物ツアー 36名 釣り堀 5名
12月	誕生会・クリスマス会 もちつき	大掃除	

年 月	園 内 行 事	園 外 行 事	年 月
29年1月	祝賀会・誕生会 すき焼き会		初詣（中山神社、彦島八幡宮、住吉神社） 24名
2月	誕生会・節分豆まき・ ふく贈呈式・ミニ運動会	布団乾燥	
3月	誕生会・ひな祭り・神社庁 慰問・開設記念・ 五目並べ大会	不在者投票 避難訓練	

園内行事については、利用者を含めたレクリエーション会議で事業内容を企画して実施したところ、活動内容の幅が広がり、多くの利用者が参加し好評を得た。行事の中では、利用者の高齢化に伴う体力低下が目立ち、移動が負担となる利用者が増加したため、一泊旅行は困難となり、日帰り旅行を実施した。

園での恒例行事の他、平成28年度は陽光苑での慰問鑑賞に参加するなど、交流の機会を多く持つことができた。

## (2) クラブ活動

外部講師によるクラブ活動を月2回実施し、その他の活動では、職員と共に利用者が主体的に楽しむことのできる内容を少人数のグループで実施した。ハイキングは吉母海岸へ行っただが、体力面の問題で参加者は限定されてきている。

名 称	平均参加人数			指導者	職 員	実施状況	備 考
	男	女	計				
陶芸	2	5	7	外部	2	月2回	
お茶会	5	12	17	外部	2	月2回	
踊り	5	10	15	外部	6	月2回	
カラオケ	4	5	9	—	2	月2回	
カラオケボックス	4	5	9	—	3	年1回	
ぬり絵等	3	7	10	職員	3	月6回	※1
ハイキング	4	5	9	—	5	年2回	※2
宝探し	25	16	41	—	3	年1回	
将棋花札他	4	2	6	—	—	随時	
映画（ビデオ）	5	8	13	—	—	年12回	
映画館鑑賞	3	7	10	—	3	年1回	
書道	10	8	18	職員	1	年2回	
健康体操	3	5	8	—	1	随時	

※1 ぬり絵、カレンダー・行事の飾り付け、行事の練習、折り紙・ウェス等作成など

※2 吉母海岸

(3) 作業の状況

作業名	平均参加人数		実施状況	備 考
	男	女		
全員作業	全員	全員	月1回	園内清掃、除草、野菜の栽培など
ポイント制作業	5	3	年37回	園内清掃、除草、野菜の栽培など※

※利用者に参加する動機付けとしてポイントを付与している。ポイントとは、利用者の活動に対して点数を付与するもので、8点貯まると缶ジュース（自販機内）3本相当を提供している。

農作業・・・地域交流をめざして、一部の利用者と共に農作物の栽培に努めた。畑は、粘土質のため栽培に困難が伴っているが、市販の肥料や堆肥を購入して栽培に取り組んだ。畑で玉ねぎ、さつまいも、じゃがいも、大根を栽培し、収穫した野菜は、クラブ活動講師や近隣住民へ配布するとともに職員、知人に販売した。さつまいもは特に良くできて、園内行事で焼き芋として賞味することができた。

園芸作業・・・園の進入口の花壇も含めて、チューリップや水仙の球根やナデシコの苗等を植え、地域景観の向上に努めた。

(4) 職場体験

地域移行や社会性確保を望んでいる利用者については、地域のリネン会社である東洋ランドリーの協力を得て、3名の利用者が日、木曜以外の午後から職場体験を継続して行っている。

また、平成28年度から新たな職場体験として、週3回1時間程度、陽光苑のトイレ・廊下清掃作業に3名が行っており、施設から喜ばれることで、やりがいを感じる活動となっている。

(5) 健康管理について

利用者の健康管理については、以下の定期検診を行った。また、平成28年度には、インフルエンザの罹患者はいなかった。

ア) 嘱託医による定期検診（毎月）

イ) 定期採血（半年に1回）※必要のある人は1ヶ月おき 下関病院付属地域診療クリニック

ウ) 胸部エックス線間接撮影（年1回） 下関市医師会病院

エ) インフルエンザ予防接種（11月） 下関病院付属地域診療クリニック他

オ) 肺炎球菌ワクチン（対象年齢者） 黒川内科及び受診機関

(6) 地域交流について

各種慰問団体の受け入れ、盆踊大会、地域文化祭出展に職員も含めて積極的に参加した。また、自治会主催のクリーン作戦（20名参加）、古宿海岸のピカピカ作戦（9名参加）にも参加した。

施設単独の取組みとして、道路脇の草取りを全員作業日以外にも実施した。

(7) 利用者の希望、要望について

施設内に意見箱を設置して利用者の意見や要望を聞いている。その要望等への回答報告と併せて直接利用者からの意見を聴く座談会を毎月2回実施し、意見に対する回答や座談会の内容を文書化して掲示版に表示している。

利用者からの意見の多くは、食事のメニューに関するもので、要望に沿うように栄養士が給食のメニューに取り入れている。行事に関する希望は、旅行先の希望が大半で旅行計画を立てる際の検討材料とした。他の利用者、職員に対する苦情もそれぞれの原因を調査し、対応策等を回答した結果、同一の苦情は減っている。



## 【VI】 下関市陽光苑

### 第1 下関市陽光苑

#### 1. 概 要

平成28年度は、入所者の生活支援の密度を高めることに重点を置き、接遇・施設整備に取り組んだ。

平成28年度は退所者が24名と多く、平均入所者数は110名/月と前年（115.8名/月）と比較し減少しているが、介護を要する者や親族交流のない者の受け入れを柔軟に対応した結果、新入所者は19名と例年より多かった。また、退所者を減らすため、介護を要する入所者が施設での生活をより長く送っていただけるよう、生活支援を重点的に行った。

接遇においては、機能訓練の強化に取り組むとともに、介護保険サービスの積極的利用により入所者への支援強化の体制作りを努めた。また転倒事故防止を目的とし、居室周辺へ手摺りを設置した。これにより居室周辺での転倒事故が大幅に減少した。

また、平成28年度は三回目の福祉サービス第三者評価事業を受審した。評価基準の改訂に沿って改善活動に取り組んできた結果、高評価を受けることが出来た。特に、ソフト面での充実度に高評価を受けたが、ハード面では課題が残る結果となっている。

老朽化した備品・付帯設備については、主管課との更新計画に関する協議を継続的に行い、平成28年度は、市負担にてデイサービスセンターのエアコン及び、法令に沿った消防設備の更新を行うことができた。陽光苑は、生活に密着する食堂エアコンの更新、揚水ポンプの更新等を行った。また身体機能が低下している入所者への対応として、居室トイレの洗面所まわりの手すりを増設している。

下関市権利擁護を要する高齢者短期宿泊事業については、2名の被虐待高齢者の緊急的な受け入れに柔軟に対応した。虐待案件に関して、関係機関との調整や専門知識の習得に努め、利用者の内1名が陽光苑へ入所となった。

#### 2. 入所者の状況

##### (1) 月別入所者数 (各月1日現在)

(単位 : 人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均/計
入所者数	114	114	114	111	111	111	109	107	107	105	104	107	110(平均)
入 所	0	1	1	2	0	2	1	3	2	0	4	3	19(計)
退 所	0	1	4	2	0	4	3	3	4	1	1	1	24(計)

※入所者数合計 1,320名 (27年度: 月平均 115.8名)

※退所者内訳: 死亡 6名・長期入院 12名・他施設入所 5名・在宅復帰 1名

(2) 措置機関別入所者数 (定員 130 名) (平成 29 年 3 月 31 日現在) (単位 : 人)

措置機関	下関市	宇部市	長門市	萩市	小国町	合計
人数	97	1	9	1	1	109

(3) 年齢構成 (平成 29 年 3 月 31 日現在) (単位 : 人)

区分	60～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90 以上	合計
男性	0	12	14	12	6	2	2	48
女性	1	5	8	13	17	10	7	61
計	1	17	22	25	23	12	9	109

※最高齢者 男性 93 歳 女性 96 歳 平均年齢 77.9 歳 (男性 74.9 歳 女性 80.2 歳)

(4) 在所期間 (平成 29 年 3 月 31 日現在) (単位 : 人)

区分	1 年未満	1～3 年	3～5 年	5～10 年	10～15 年	15 年以上	合計	平均
男性	9	5	11	10	9	4	48	6.3 年
女性	10	10	11	20	7	3	61	6.1 年
計	19	15	22	30	16	7	109	6.2 年

### 3. 処 遇

入所者の日常的な機能訓練の場として、お達者クラブを毎日開催するとともに、歩行訓練・知能リハビリ提供の場として日本一周クラブを立上げ、活動した。また、その他のクラブ活動についても、参加状況は例年並みであったが、活動内容を見直してマンネリ化の防止に努めた。

接遇においては、ケアプランに沿った支援の提供とともに、特に身体機能が低下した入所者に対しては、積極的に介護保険サービスの導入を検討した。併設デイサービスセンターを利用しての機能訓練機会の増大や、適切な介護機器導入、訪問介護サービスの利用による事故防止に努めた。介護保険サービス利用の体制が整ったことで、入所者に対して、より安心・安全で質の高い施設生活の提供が出来ることとなった。また、認知症・精神疾患を有する入所者への対応も、医療機関と連携し、認知症対応型のデイケア、精神科デイケアを利用することにより、入所者個々の状態に応じた幅の広いケアを提供した。

その他、年度半ばに嘱託医の急な交替があったが、迅速に対応し、入所者の医療・健康管理に影響を及ぼすことなく交替できた。

衛生管理面では、毎年継続して行っている感染症等の予防活動に努め、インフルエンザ等の感染症の発症及び蔓延を防止できた。

地域貢献事業としては、慰問の積極的な受け入れを行い、活用を図った。また、慰問の際に地域住民や近隣施設入所者も招待することで地域への還元にも心掛けた。同法人内での交流にも注力し、特に芋掘りではこども発達センター豊浦分室の利用児童を招待し、入所者と一緒に芋掘り

体験をすることで世代間交流が図れた。

(1) 主要行事

毎月	誕生会・喫茶・外出レクリエーション・施設内レクリエーション・自治会役員会・選択食・クラブ活動
4月	身長体重測定・ポエム大会・居室消毒
5月	園遊会・地震想定避難訓練・緊急連絡網訓練・害虫駆除剤散布・地区清掃参加
6月	衣類百均販売・日帰り旅行(宇部・山口方面)・バイキング食
7月	不在者投票・日帰り旅行(川棚方面)・施設消毒・夏祭り(地区自治会共同開催)・屋上清掃
8月	盆供養・梅花園夏祭り参加・胸部X線撮影
9月	敬老祝賀会(地区招待)・彼岸供養・ポエム大会
10月	昼間想定避難訓練・自治会当番慰労会・市老協協演芸大会・衣類百均販売・芋掘り(こども発達センター豊浦分室との交流)
11月	焼き芋大会・開設記念祝賀会・吉見地区文化祭・インフルエンザ予防接種・福祉サービス第三者評価事業受審
12月	クリスマス年忘れ会・クリスマスイルミネーション
1月	新年祝賀会・書き初め大会・どんと焼き
2月	豆まき・針供養・バイキング食
3月	ひな祭り・彼岸供養・夜間想定避難訓練・自治会当番慰労会・不在者投票・神社庁健康祈願

(2) クラブ活動

クラブ名	平均参加人員			指導者	実施状況
	男性	女性	計		
大正琴	1	6	7	外部	月2回程度実施
陶芸	2	4	6	外部	月1回程度実施
手工芸	1	10	11	職員	月1回程度実施
カラオケ	10	8	18	職員	月2回程度実施
グラウンドゴルフ	7	2	9	職員	月1回程度実施
絵画	8	20	28	職員	月1回程度実施
施設内外作業	15	20	35	職員	月1回程度実施
日本一周クラブ	7	20	27	職員	月1回程度実施
お達者	—	—	30	職員	ほぼ毎日実施

(3) 平成28年度ボランティア受入状況

月 日	団体名
4月3日	シャンソン慰問
5月12日	音楽工房陽だまり慰問
6月28日	下関市役所吹奏楽団慰問
7月17日	アンサンブルゼーレ慰問
8月6日	コーラス華慰問
12月10日	あかね会クリスマスコンサート
12月11日	竜岡カラオケ同好会慰問
2月9日	ふく連盟慰問
3月27日	神社庁健康祈願

(4) 下関市権利擁護を要する高齢者短期宿泊事業

下関市から委託を受け、権利擁護を要する高齢者（高齢者虐待を受けた高齢者で、在宅での生活が困難な者）について、その権利擁護のため、短期間受け入れる事業を行った。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用人数	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	2
利用日数	0	0	0	0	0	14	0	0	0	14	0	0	28

※利用実数2名

(5) 健康管理について

入所者の健康管理のために、次のことを行った。

ア) 嘱託医による定期検診（毎月）

イ) 胸部エックス線間接撮影（年1回）

ウ) インフルエンザ予防接種（年1回）

エ) 基本健康診断（年2回）

下関市医師会病院

江藤内科クリニック

江藤内科クリニック・江藤病院

## 第2 下関市陽光苑デイサービスセンター

### 1. 概 要

平成28年度は併設施設の陽光苑からの利用者受け入れを重点的に行うことで利用者増に努めた。上半期は併設施設の入所者の積極的な受け入れによる利用者増で、12.4名/日となったが、利用者の長期入院や施設入所等で利用の減少が見られ、下半期は11.6名/日となった。年間利用者数は12.0名/日で、前年度10.7名/日に比べ増加となった。

#### (1) 地域密着型通所介護・介護予防通所介護

要介護者及び要支援者を対象とした制度であるところから、個々の通所介護計画に沿った、入浴、排泄、食事といった日常生活上の必要な支援を行った。年々、高齢化重度化していく利用者の状態に応じて、見守り介助の強化を図り転倒などの事故を防止し、また機能訓練を意識した運動を取り入れることで心身機能の維持あるいは回復にも努めた。利用回数を増やす希望にも柔軟に対応することで利用者の家族の介護負担の軽減を図り、併せて身体的・精神的自立の支援が図れるように努めた。

また、併設施設の陽光苑との連携の強化を図り、日常生活に介護を要する入所者を積極的に受け入れることで利用者の増加に努めた。

デイサービスセンターの情報発信については、陽光苑入所者への周知活動、陽光苑職員との業務連携の強化を推進するとともに、地域に対しては、運営推進会議を活用して陽光苑デイサービスセンターの活動・情報の発信に取り組んだ。また、平成29年度より開始される「介護予防・日常生活支援総合事業」についても、利用者・家族への説明を行い、利用者の認定更新や移行がスムーズに行えるよう取り組んだ。

#### (2) 介護予防支援通所

介護保険による支援を必要としないものの、日常生活を営む上で何らかの援助が必要な人達に対して、要支援あるいは要介護状態になる事を予防するため、ストレッチ運動や軽体操および口腔体操などの機能回復訓練を行った。

平成29年度より「介護予防・日常生活支援総合事業」が下関市でも開始されることが決定しており、平成28年度をもって介護予防支援通所事業が終了となるため、職員は説明会等へ積極的に参加し、情報収集に努め、利用者に対しても混乱を招かないよう説明を行った。

年間を通した利用者数については、利用者の高齢化や平成28年度までの事業終了に伴い、介護認定を受ける利用者が増えており、利用者の減少となっている。

また、平成29年度からの事業形態について検討し、新規に「介護予防・日常生活支援総合事業(生活維持型)」の事業申請を行った。

#### (3) 生きがい支援通所

下関市陽光苑デイサービスセンターの自主事業として取り組んでおり、閉じこもりの解消などの支援が必要な人達に利用していただき、生きがいのある生活を送ることができるよう、楽

しみを提供すること・社会性の喪失防止に努めた。

利用者数は僅かで、平成 29 年 3 月には、利用者の利用中止（死亡）にて、利用実績が 0 人となったが、今後も地域貢献活動の一環として取り組んでいきたい。

## 2. 利用者数の状況（平成 29 年 3 月 31 日現在）

### （1）地域密着型通所介護・介護予防通所介護

ア) 地域密着型通所介護（平成 28 年度登録者数：30 人）

（単位：人）

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
28	206	201	213	200	230	207	194	210	193	183	180	203	2,420
27	158	134	160	185	173	173	177	178	188	150	180	199	2,055

イ) 介護予防通所介護（平成 28 年度登録者数：13 人）

（単位：人）

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
28	47	46	50	47	45	38	42	43	39	36	41	29	503
27	43	40	44	46	40	42	53	47	47	52	53	56	563

### （2）介護予防支援通所（平成 28 年度登録人数：8 人）

（単位：人）

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
28	16	14	14	11	10	6	5	8	8	8	8	8	116
27	21	19	19	17	17	16	18	17	12	10	16	15	197

### （3）生きがい支援通所（平成 28 年度登録人数：1 人）

（単位：人）

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
28	1	2	1	0	0	2	1	2	2	2	1	0	14
27	6	4	4	4	2	4	6	4	3	1	2	2	41

## 3. 主要行事等

デイサービスでは利用者が健康で生きがいをもった在宅生活を継続していけることを念頭に、機能訓練・レクリエーションに取り組んだ。前年度より始めた昼食後の口腔ケアは特に利用者に着定しており、利用者の体調維持の一助となっている。機能訓練については、従来のストレッチ運動や軽体操、希望者に対しての歩行訓練に加え、食事前の口腔体操を継続して行った。

レクリエーションについては、月間行事予定表を作成し、各月の行事を利用者にもわかりやすく伝わるよう掲示し、利用者個々の能力・希望に応じての小規模なレクリエーションを行った。具体的には、知能リハビリドリル（まちがい探し・漢字・計算）、テーブルゲーム、パズル、輪投げゲーム、折り紙、ぬり絵、手工芸、カラオケ等を実施し、楽しみの中での機能維持を図った。特に折り紙にて紙飛行機を作って飛ばすレクリエーションは、昔の遊びを思い出されとのこと

で好評であった。また、季節の飾り作りでは、利用者それぞれの馴染みの飾りを作ってもらったり、職員が教わったりと活動の幅が広がり、利用者同士や職員とのコミュニケーションが増えた。

#### 主要行事

毎月	誕生会
4月	季節の飾り付け
5月	地震想定避難訓練
6月～7月	七夕飾り作り
10月	火災想定避難訓練
12月	クリスマスツリーの飾り付け
1月	門松の飾り付け
2月	節分の豆まき 転倒予防教室
3月	神社庁による健康祈願祭

## 【Ⅶ】 ふくふくこども館

### 1. 概 要

ふくふくこども館は、当事業団・株式会社丹青社・NPO法人下関子ども・子育てネットの3者による共同事業体「下関こども未来創造ネット」により管理運営を行っている。指定管理3年度目で期間終了年度に当たる平成28年度は、提案時の3年間の計画達成を目指し、事業計画に沿って着実に業務を遂行するとともに、スタート時から広げてきた各団体や個人との連携を基に子育て家庭支援事業と地域活力増進事業をより充実させることを意識し、職員が一体となって運営に当たった。

平成28年度の利用者は、18万6千人を超え年間目標の10万人を達成した。前年度とほぼ変わらない利用者数となり、予測していた利用の落ち込みがなかったことは、単に親子の遊び場としてだけでなく、ふくふくこども館が子育て支援の拠点として市民に定着し、賑わいを創出できた。

### 2. 管理運営業務の実施状況

#### (1) 管理運営及び事業の実施状況

利用者が安心して快適な利用できるように、館内の環境整備を徹底し、安全管理だけではなく、職員一人ひとりが利用者きめ細かな対応を心掛け、利用ニーズに対しても適宜改善を行った。

円滑な運営を行うために、共同事業体の意思決定機関である運営委員会を年2回開催したほか、下関市との連絡調整会議を隔月で定期的に、また、第三者から意見を聴収する運営協議会を2回開催した。

館内では各部門の調整会議及びスタッフミーティングを定期的実施する中で、個々の立場からの意見交換を行い、より利用者目線に近い運営を目指した。

年間の事業プログラムは、2年間の実施を踏まえ企画内容の充実を図り、計画を上回る実施回数となった。職員はもとよりボランティア、市民活動団体や大学、企業からの協力を得て、幅広いプログラムを実施することができた。

#### (2) 施設維持管理業務

施設維持管理においては、職員で日常的に点検を行い、日々の清掃点検によって異常を認めるときには、早急に関係機関と連携し、事故防止に努めた。

##### ア) 電気設備、空調設備

初年度から解決できていない問題として空調設備コントローラーのセンサー異常については、市と協議した結果、機能上の問題はないので通常通りの運用とした。電気系統については駅ビル3年定期点検が行われた。電気ブレーカーの位置を確認し、停電等緊急事態に対応できるように、ブレーカートラブルに備え、ビル管理部門・電気会社と連携した。

夏場の繁忙期には、エアコンの効きが追い付かず、館内の温度が下がらない日々が続き、対策が見つからず苦慮した。



#### イ) 建築物、設備

こども一時預かり室に西陽が当たり、室温が上昇してしまうため、対策としてロールカーテンを設置した。また、交流スペーストイレ前の手すりがずれたため、すぐに職員が応急的な補修をし、建物に関わるので市こども家庭課と連絡を取りながら業者によって修繕を行った。

#### ウ) 展示造作物、大型遊具、備品保守点検

大型遊具制作業者による年1回の定期保守点検を実施し、回転吊り下げ遊具くらげメリーゴーランド及びおはなしベルクロ絵本の修繕、くらげスツール及びトランポリン外枠のビニールレザー貼替を行った。いずれも想定を上回る利用による経年劣化である。

また、ふくママ滑り台上り面の亀裂は、応急的な補修を行うなど、小さな破損等にも細かく対応した。定期保守点検の結果は、すべてA判定ではあるが、職員による日々の点検に努め、安全保持に努めた。

#### エ) 館内清掃、環境維持

乳幼児が利用することから、日常清掃業務は業者に委託しており、館内の衛生に配慮し、美観と快適性を維持した。エアコンフィルター、ロスナイフィルター及びカーペットの洗浄、床面ワックス清掃等も定期的にも実施し、環境維持に努めた。

また、ビル管理者による空気環境測定、害虫駆除などの環境維持に必要な作業も年間を通して定期的に行った。利用が増えると、二酸化炭素濃度が基準値を超えることが続くため、開館前に窓を開放して換気を行うなど対策を取った。

#### オ) 遊具、玩具

日々の職員による清掃時には触手での点検を行い、年1回、遊具制作業者による保守点検を実施した。ボールプールメンテナンスは2ヶ月に1回行った。布製玩具は消耗が早いので職員で補修や作り替えを行った。乳幼児が利用する場所であることから、定期的な玩具洗浄、手すり、蛇口などの消毒を行い、衛生面・安全面に配慮した。

開館3年度目であり、玩具の全体的な消耗劣化が見られるので、必要に応じて買い替えを行った。

#### カ) 安全・保安業務

職員の定期的巡回、声かけ、防災設備管理室スタッフとの連携により、事故防止及び危機未然防止に努めた。また、下関駅交番からの巡回もお願いしている。

### (3) 職員配置、研修

#### ア) 職員配置

計画どおり常時10人以上の職員を配置するとともに、平成28年度は事務員を1名増員し、管理運営業務を適正に執行した。また、土日祝日や夏休み等、イベントや研修開催時などの繁忙期には十分対応できるよう通常以上の人員を配置した。

#### イ) 研修

平成28年度研修計画に基づき、フォローアップ研修等を実施した。月1回のスタッフミーティングを定着させ、活発な意見交換を行った。また、相談業務においては、市こども保

健課と定期的な情報交換会を行うことで連携が強化でき、利用者サポートの充実に努めることができた。

#### (4) 安全管理、緊急時の対応

##### ア) 応急救護

応急救護対応件数のうち、多くは打撲（接触や転倒）であり、アイシングで対応する程度の軽症であった。その他は段差による転倒、のぼせによる鼻血や嘔吐など、その都度対応した。救急対応として、2件は痙攣、裂傷で病院へ搬送するケースがあった。

##### イ) 災害緊急時対応

自然災害時の安全運営への対応としては、利用者の安全を第一に下関市と緊密に連携を取り、スタッフの配置、待機連絡、利用者への広報告知も含め迅速に対応した。

1月に、開館時間中停電が発生するという事態が起こったため（30分後復旧）、その後停電時における館の対応マニュアルを整備し、必要な備品等の購入を行った。

### 3. 施設の利用状況

#### (1) 全 体

全体の年間目標数である10万人を大幅に超える186,629人の利用があった。前年度と比較しても約1%減でありリピーター率も高いことから、ふくふくこども館の存在が市民に定着しており、事業内容の工夫を含め利用促進に努めた結果であると言える。

場所別利用者数内訳

(人)

場 所	平成28年度	平成27年度	平成26年度
プレイランド	138,709	137,611	165,913
多 目 的 室	9,171	11,384	10,494
こども一時預かり室	1,008	905	938
交流スペース・屋上	37,741	36,879	72,595
合 計	186,629	186,779	249,940

なお、多目的室及びこども一時預かり室の使用許可申請に係る不許可件数は、0件であった。

#### (2) プレイランド

プレイランド利用者は、138,709人で、前年度を約千人上回った。昨年度に増して2回以上の利用者が多く、また来たい施設として館の存在が定着していることが伺える、利用者の声には小学生の入場を希望するものもあるが、未就学児対象の遊び場としての施設であることを説明し、理解を得るよう対応した。幼稚園・保育所の団体利用児には、通常利用の乳児を考慮し、職員の巡回を強化し、団体引率者へも安全面の配慮を促した。

大型連休・年末年始などの繁忙期は、市外・県外からの初回利用者が増えることもあり、怪我や苦情が発生するリスクが高まるが、職員の成長とともに対応が行き届き、発生件数は減っている。

プレイランド利用者数内訳

(人)

内 訳	平成28年度	平成27年度	平成26年度	合 計
大 人	70,374	69,962	84,500	224,836
未 就 学 児	63,528	62,574	74,429	200,531
そ の 他 の 子 ど も	4,807	5,075	6,984	16,866
合 計	138,709	137,611	165,913	442,233

(3) こども一時預かり室

利用人数は3年目で増加し、継続利用者が7割を超えた。利用時間数も最大3時間での利用が半数を超えていることから、保護者が安心して子供を預けていることが分かる。

1、2歳児を預ける家庭が多く、預ける理由については、買物・リフレッシュなど、子育て中の母親が子供を一時的に預ける先として、定着してきた。

こども一時預かり室利用実績

(人)

内 訳	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	合 計
平成28年度	115	324	229	183	87	50	20	1,008
平成27年度	112	250	193	176	101	52	21	905
平成26年度	134	229	212	166	95	75	27	938

こども一時預かり利用時間数実績

(時間)

内 訳	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
平成28年度	125	130	145	162	208	258	229	207	207	281	199	253	2,404
平成27年度	100	163	193	173	196	149	154	135	141	137	188	198	1,927
平成26年度	96	95	131	146	203	131	143	146	119	133	149	216	1,708

(4) 多目的室

貸室としての利用は173件（うち減免17件）であった。団体での利用が多く、内容は講座の開催、会議の会場、幼稚園や保育所の遠足等による休憩場所などである。貸室利用以外に、館の企画として利用者ニーズに合わせたイベントを多目的室で展開することで、利用促進へとつながった。

また、市内外から24件の視察があり、多目的室を使って、館の概要説明を行った。子育て支援施設の運営方法や運営費、事業内容について関心が高く、様々な質問があった。

平成28年度多目的室利用実績

内 訳	種類	貸室利用（うち減免）	事業利用	指定管理利用	合 計	27年度	26年度
件 数	大	38 (8)	66	3	173	249	166
	中	25 (3)	1	3			
	小	28 (6)	5	4			
時 間	大	196 (56)	267	11	671	874	606
	中	66 (9)	3	9			
	小	94 (12)	18	7			
人 数	大	2,108 (654)	5,572	53	9,171	11,384	10,494
	中	675(61)	7	41			
	小	585(115)	69	61			

(5) 相談室業務

前年度と比較すると相談件数は減少しているものの、継続的な相談が増え、相談内容も複雑化しており、館だけで抱えておけないような相談ケースは、他機関との連携の重要性を感じた。市子ども保健課相談支援係と定期的な相談連絡会議の場をもち、継続的に関わっていく支援のあり方について検討を行うことができた。ふくふく子ども館に来館する利用者に対する理解を深め、きめ細やかな対応ができるよう、職員間でのミーティングを増やし、サポート体制の充実を図った。

相談受付実績 (件)

相談方法	巡回	個別	電話	メール	その他	合計
平成28年度	404	40	19	5	2	470
平成27年度	593	72	26	3	25	719
平成26年度	503	52	13	9	4	581

(6) 利用者の声への対応

利用者からの声は、好意的なメッセージの他、プレイランド入場制限（小学生入場規制）に対する不満、駐車サービス券の常時配布を望む意見があがった。駐車サービス券配布については、残量を見ながら、平日配布を実施し、利用促進につながるよう工夫をした。利用者へ伝えたい情報は、館内掲示、市報、ホームページなどで事前の告知に努め、公平性を確保した。その他スタッフ対応や言葉がけの改善には、職員全員で話し合いをもち、勉強会を行って改善を図った。

#### 4. 基幹事業の実施状況

平成28年度の事業計画に基づいて、事業を実施した。

##### (1) 基幹事業実績

種別項目	事業項目	予定回数	プログラム数	実施回数	大人	子ども	合計
			(回)	(回)	(人)		
遊び・体験学習事業	クリエイティブプログラム	329	30	580	25,012	24,869	49,881
	アクティブプログラム		4	123	297	272	569
	いのちふれあいプログラム		2	11	296	297	593
	才能・特技発見プログラム		4	8	89	91	180
子育て家庭支援事業	各種子育て相談・指導	935	2	477	494	2	496
	子育て・親育ちプログラム		9	57	1,295	1,292	2,587
	大規模子育てイベント		1	1	1,014	1,014	2,028
	子ども子育て情報発信		3	323	623	0	623
	こども一時預かり機能		1	306	—	1,008	1,008
地域活力増進事業	子育て関連団体サポート	14	4	16	474	579	1,053
	地域交流の促進		1	1	8	5	13
	ボランティア・サポーターの育成・支援		1	1	4	2	6
	他機関との連携事業の企画・実施		7	43	1,353	1,313	2,666
郷土文化伝承事業	ふるさと・下関プログラム	3	5	5	114	129	243
利用推進事業	子育て世代の利用促進	12	3	350	162	189	351
	多彩な行事・イベントの開催		4	310	231	186	417
	幅広い広報活動		5	838	838	—	838
合 計		37	86	3,450	32,304	31,248	63,552

##### (2) 基幹事業の主な活動事例

###### ○遊び・体験学習事業

「音あそび」「写真撮影コーナー」など、職員による手作りコーナーを充実させ、季節感のある親しみやすい環境づくりを行った。「屋上であそぼう」「おひさま農園」「gogo アニマル」など、開放的な空間づくりや、外部講師を招いた「はじめての教室」など、多彩な教室開催を展開した。

###### ○子育て家庭支援事業

主に未就園児とその保護者に向けた事業を展開した。親子で楽しめる「ぷくぷくひろば」や「えいご☆だいすき」など、職員の特技を発揮する事業展開ができた。

また、大規模子育てイベント「ふくふくフェスタ2016」では、近隣の商業施設の協力によって、事業を拡大することができた。

###### ○地域活力増進事業

企業やボランティア活動団体などと連携し、子育てに関連するイベントを多く取り入れ、こども館だけではなく、近隣施設への賑わいとなるような試みを行った。

### ○郷土文化伝承事業

日本の伝統行事を取り入れたイベントを開催した。

### ○利用推進事業

8月に利用者数50万人を突破し、記念式典を行った。様々なイベントや広報活動を通じて、利用促進を図り、テレビ取材など各種メディアの露出が増えたことによっても、来館効果があった。

メディア露出が増えることによる個人情報保護のトラブルを防止するため、取材申請書の記入を実施し情報源を明確にした。当館ホームページ及びフェイスブックに掲載している情報を更新する際には、古い情報は削除し、情報整理を行うようにした。

また、ホームページ閲覧がスムーズにできるよう、ファイル等データを軽量化し、スマートフォンでも見られるように改善した。

### メディア内訳件数

内 訳	新聞	雑誌・情報誌	ラジオ	テレビ	ウェブ	市報	合計
平成28年度	18	20	3	14	1	21	77
平成27年度	35	9	4	11	1	12	72
平成26年度	37	5	3	22	2	15	84

## 5. 自主事業の実施状況

基幹事業に加えて、未就学児だけでなく、小学生や子育て中の親・祖父母等、幅広い利用者を対象とした事業を展開した。

### (1) 自主事業実績

種別項目	事業項目	予定回数	プログラム数	実施回数	大人	子ども	合計
			(回)		(人)		
遊び・体験学習事業	本格！ものづくりプログラム	8	3	50	794	939	1,733
	本格！習い事プログラム		3	20	103	106	209
	いのちふれあいプログラム		1	1	13	14	27
子育て家庭支援事業	プレママタイム	19	1	1	6	4	10
	ベビータイム		1	5	71	75	146
	ママタイム		3	12	149	118	267
	パパタイム		1	1	29	30	59
地域活力増進事業	プロフェッショナル連携プログラム	2	2	2	83	102	185
	地域子育て力の底上げ		0	0	0	0	0
歴史・伝統プログラム事業	歴史・伝統プログラム	4	3	3	88	113	201
利用推進事業	子育て家庭応援プロジェクト	2	2	308	142	97	239
合計		35	20	403	1,478	1,598	3,076

### (2) 自主事業の主な活動事例

#### ○遊び・体験学習事業

プレイランドに入れない小学生が楽しめるプログラムとして「手づくり工房」を開催するなどの工夫をし、多くの参加があり好評を得ることができた。

#### ○子育て家庭支援事業

初年度より実施している、ママタイムの参加希望が多いため、回数を増やしより充実したプログラムを提供した。

#### ○地域活力増進事業

平成28年度は、近隣の商業施設や企業の協力が拡大し、多彩な事業が展開できた。「ハロウィンパレード」は、前年度より規模が拡大し、商業施設のイベントとあわせて多世代での交流の場となった。

#### ○歴史・伝統プログラム

昔からある遊びを取り入れたコーナー作りを行い、多世代で遊べる空間を提供するなど、日本の文化や伝統に触れる機会を作った。

#### ○利用推進事業

子育て家庭応援プロジェクトとして MaMaShop や子育てフリマを実施し、出店希望者も増え、利用者として定着してきた。

## 【Ⅷ】 下関市こども発達センター診療所

### 1. 概 要

平成27年5月、こどもたちの発達支援に係る診療等を行う診療所を開設した。診察に当たっては医師による診察・行動観察、心理士による発達検査等を念入りに行うこととし、とりわけ新規患者には、原則として診療時間を1時間程度確保するなどして障害の程度を慎重に見極めるようにした。診察結果をもとに適切な治療を行い、発達支援の必要な児童について下関市こども発達センターをはじめとする市内の児童発達支援事業所の発達支援、訓練、療育等が受けられるように紹介した。

### 2. 診察実績

#### (1) 診療日数及び患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日	15	14	16	16	15	13	14	16	14	15	15	17	180
総受診者数	141	154	139	158	168	156	157	159	177	170	164	196	1,939
新患人数	28	20	19	24	24	22	15	20	12	22	10	17	233

#### (2) 療育機関への紹介等

新規患者233名のうち62名についてはすでに療育を受けており、療育を受けていなかった171名のうち療育の必要性が認められた90名について、下関市こども発達センターをはじめとする療育機関等で療育が受けられるように紹介を行った。